

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ゆず本山ルーム		
○保護者評価実施期間	2026年3月17日		2026年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2026年3月17日		2026年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた1対1の専門的支援と信頼関係	お子様一人ひとりの特性や発達段階に深く寄り添うため、徹底した1対1のマンツーマン支援を実施しています 。職員の配置数を適切に確保し、丁寧な対話を通じてお子様が「場所や先生を信頼し、目をキラキラさせて通える」関係性を構築しています。	今後も専門性の高い支援技術を研鑽し、お子様が楽しみながら成長できる環境を維持します。さらに、現在の質の高い個別支援体制を継続・安定化させるため、職員研修を強化し、お子様とご家族の双方に「ゆずに通ってよかった」と感じていただける満足度を追求してまいります。
2	衛生的で安全に配慮された療育環境の提供	お子様が心身ともにのびのびと、かつ安全に活動できるよう、広々とした清潔な空間設計と整理整頓を徹底しています。具体的には、お子様の身体の大きさに合わせた家具の選定や、活動内容に応じた配置の工夫により、生活空間がお子様自身にとって分かりやすく構造化されるよう配慮しています。活動中も職員間の連携により、お子様の動きに合わせた動線の安全確保に常に努めています。	現状の環境評価に満足せず、お子様の月齢や成長のステージに合わせ、最適なスペース構成へと柔軟にアップデートを継続します。特に、保護者様からご意見をいただいた集中力の維持については、パーテーション等の活用により視覚的なノイズを適切にカットし、お子様の特性に合わせた「より専念できる環境」へと改善を重ね、安全で心地よい居場所づくりを追求してまいります
3	親子同室を通じた対話型保護者支援	「親子同室」や「保護者支援ファースト」を掲げ、毎回のフィードバックで活動の意図を直接共有し、保護者様の悩みやニーズに即座に対応できる体制を整えています。日々の対話を通じ、ご家族との強固なパートナーシップを築いています。	「ゆずカフェ」やオンライン交流会等の場をさらに活用し、ご家族が孤立せず、情報交換やリフレッシュができる機会を拡充します。ご家庭での関わり方についても具体的な提案を強化し、親子双方が将来への見通しを持てる支援を行っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集中を要する課題の際の環境構造化	広々としたオープンスペースであるため、運動等の動的活動と学習等の静的活動が重なる際、視覚的な刺激が集中を妨げてしまうことがあります 。物理的な遮断が不足している場面があることが要因です。	パーテーションや衝立を効果的に導入し、机に向かう課題では視覚的なノイズをカットできる環境を構築します。活動内容に応じた動線と座席配置を徹底し、お子様が「今はこれに集中する時間」と認識しやすい空間の構造化を改善します。
2	利用初期における計画内容の理解促進	ご利用開始間もない段階では、個別支援計画の具体的な方向性や、日々の活動が将来的にどう繋がるかという支援の見通しが保護者様に伝わりきっていない側面があります。説明のタイミングや手法に検討の余地があります。	利用初期のオリエンテーションを強化し、スモールステップでの目標設定をより分かりやすい言葉や資料で共有するよう改善します。初期段階から支援の効果を実感し、安心感を持って継続していただけるよう、丁寧な情報提供に努めます。
3	外部機関との連携状況の可視化	保育園や幼稚園等の関係機関との連携は必要に応じて行っていますが、その具体的な内容や経過が保護者様に十分に見えていないという課題があります。情報共有の頻度やフィードバックの方法が課題と考えられます。	園との連携状況や訪問支援で得られた知見を、日々の報告の中でより積極的に共有・可視化するよう運用を改善します。地域全体でお子様を支えているという安心感をご家族に届けるため、連携の透明性と連絡体制の質を向上させます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	発達支援ゆず本山ルーム
------	-------------

公表日
2026年 3月 30日

利用児童数
2026年 3月 30日
回収数 32

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30	2			月齢が低いので現在で十分。	現状の環境にご満足いただきありがとうございます。今後、その時々々の発達段階に合わせた最適なスペース配分や環境構成を柔軟に検討・改善していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	30	2			・1対1での対応がありがたい。 ・1対1で関わっていただける必要数が確保されている。	個別支援の体制を評価いただきありがとうございます。今後もお子様一人ひとりに深く寄り添い、質の高いマンツーマン支援を維持・継続できるように職員の研修に努めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	5		2	散らばるおもちゃが整頓されていない。	環境面への配慮を褒めていただきありがとうございます。安全かつ自発的に活動できるよう、今後も整理整頓を徹底し、成長に合わせた適切な環境設定を継続・改善してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30	2			・家具の高さもちょうどいい。 ・部屋の造りや空間は広々していて過ごしやすいと思う。活動に合わせた場所はあるものの、視覚として遠いものがないので気が散りやすく、集中が途切れやすい。	広々とした空間を活かしつつ、集中が必要な課題の際には、パーテーションの活用や座席配置の工夫により視覚的な刺激を遮るなど、お子様がより専念できる環境づくりを具体的に改善してまいります。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28	2		2	・盾でプリント学習をしている際に、運動などの活動をしているお子様と孤立等なく同じ空間になるので、気が散りやすい子は集中できないかなと感じました。 ・集中力が続きにくい空間だと思つので、机に向かってする必要のある課題では続かなく上達していません。	集中が必要な課題の際には、パーテーションの活用や配置の工夫を行い、お子様が活動に専念できる環境づくりを改善してまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	31			1	まだ今日が3回目なので。	ご利用開始間もない中で率直なご感想をありがとうございます！支援計画やその効果について、早期に、かつ分かりやすくお伝えできるよう、説明のタイミングや方法を改善していきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28	1		3	・よくわからないが、子は良い方向に改善されてきている。 ・まだ3回目なので分からない！	お子様に良い変化が見られているとのこと、私も大変嬉しいです！今後は、支援計画の内容やその効果について、より早期に、かつ具体的に共有できるように説明のタイミングや方法を改善していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	1		2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	1		1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	7	5	8	・園に通っているので、必要とも思わないです。 ・保育園に通園中 ・園とどのように連携しているか知らない	お子様の状況に応じて連携や訪問支援が必要と感じられた際には、いつでも迅速に対応・ご提案ができる体制を整えております。ご不安なことがありましたら、いつでもご相談ください。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	4	1	5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	31	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	1	1	1	面談はないが、毎回話時間設けられています。	日々の対話を大切に捉えていただきありがとうございます。今後は、日頃のコミュニケーションに加え、改めて個別の面談機会を定期的にご案内するよう運用を改善してまいります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	2	7	15	・土日などで数カ月1回、イベント企画みたいなものがあればうれしい	保護者様同士の交流やリフレッシュの場として、対面の集い場「ゆずカフェ」を再開いたしました。今後はオンラインでの集い場も順次再開し、より参加しやすい環境を整えてまいります。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	2		2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている と思いますか。	29	3			孫を連れて行っているためあまり日常生活は分からないが、毎回様子を聞いてくださる。	ご家族のどなたが来られてもお子様の活動内容や成長の様子が鮮明に伝わるよう、より分かりやすいフィードバックを心がけ、連携を深めてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	4		9	連絡体制。電話のみではなく、LINEでも連絡できると助かる。	確実な情報伝達とセキュリティ維持を優先し、現在LINEの導入は見送っております。安全な連絡体制のあり方を検討し、よりスムーズな情報共有に向けて改善してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	2	1	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	1		9		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	1		7		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1		7	・事故は起こっていない。 ・事故等が今までにない。	安全面への信頼をいただきありがとうございます。現状に満足することなく、事故防止マニュアルの徹底や訓練の継続を通じて安心して過ごせる安全な環境づくりに万全を期してまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	32				場所、先生を信頼、安心しています。	大変励みになるお言葉をありがとうございます。お子様が「行きたい」と思える場所であり続けられるよう、支援の質をさらに向上させてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	32				毎回目をキラキラさせて通所しています。	温かいお言葉、ありがとうございます。お子様がさらに安心して楽しみながら成長できる場となるよう、職員の専門性向上に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29	2		1	いつも相談にのっていただいて、本人はもちろんです。父母も大変満足しています。	温かいお言葉をいただき、職員一同心よりお礼申し上げます。今後も保護者様との対話を大切に、お子様だけでなくご家族の皆様の方に寄り添った支援を継続してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ゆず本山ルーム		公表日		2026年 3月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		小集団や同時利用の人数等を考えてご案内している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			運動遊びや小集団等、身体を大きく動かす遊びが増えるので、十分安全な環境について考慮して準備する必要があるように思われる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		子どもが使いたい玩具を自分で選べるように、また落ち着いて遊べるように整理されている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		部屋の構造上、別の場所を用意することはできないが、ルームの中で仕切る等の工夫で気持ちの安全を確保できるよう心がけている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		ケースの振り返りや申し送り際に際して、スタッフ全員で共有して話し合うことができている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・スーパーバイザーやセラピストによる研修やケース検討会など、情報共有の機会が多い。	スタッフ全員で考える場をより充実させていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		更新時期にはご利用者の方へのアセスメントやご説明を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		保護者の方との情報共有は日ごろから大切にしており、より安心して過ごせる環境についてスタッフ間で共有、検討している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		担当が入れ代わる場合は特に、ルーム内で共有するようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		スタッフは発達記録チャート(NCプログラム)を使った評価を行い、その結果に基づいて取り組む内容や遊びを考えている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者同席のため、日ごろの様子や生活のなかでの困りごとをお聞きして、ニーズに合った療育の実施に繋げるよう考えている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		小集団活動の内容や振り返りをスタッフ全員で考え、行っているのはよいと思う。上長を中心にルーム間での情報交換も含めて適宜行われている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		小集団活動においては特に細かく話し合いの時間 を持てるようルーム内で工夫している。役割分担 等についても毎回細かく決めている。	より詳細な話し合いができるようにしてい きたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行 っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支 援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その場で保護者にフィードバックすることを大切に している。 ルーム内で、できる限りお子さまや保護者の事を共有す るよう意識してその都度はなしかけている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善 につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しが必要 性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		機会があればそのようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進 の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こ ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等 の情報共有と相互理解を図っているか。	5		また、訪問支援についても保護者の要望があれば 行っており、お子様やご家庭のニーズに合う支 援を目指している。	他事業所との並行利用児については、必要に 応じて情報共有をより密に行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間 で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連 携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受 けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積 極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてス ーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこ どもと活動する機会があるか。	5			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況 や課題について共通理解を持っているか。	5		ご利用時の聞き取りやフィードバックを大切 に行っており、都度お子様の状況について理 解を深めるよう心がけている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プロ グラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修 の機会や情報提供等を行っているか。	5				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊 重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや 家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		お子さまの興味関心や思いを受け止めるよう 心がけている。また、保護者の方のお話も 日々お聞きして共有させていただいている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護 者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		お子さまの興味関心や思いを受け止めるよう 心がけている。また、保護者の方のお話も 日々お聞きして共有させていただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応 じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者同室のため、日常的に対応している。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・ご兄弟姉妹と一緒に来られた際は活動に参加しても売らうことはある。また、小集団の中で交流がある。 ・自由に書き込める手帳を置いて、保護者の方が自由に情報を交換できる機会を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		現在もすみやかに相談にのる体制はできているが、今後はさらに心配りを行い、保護者様の小さなサインも見逃さないようにしてい	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			より情報発信を行っていきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域の子どもの交流はない。	必要に応じて、地域との交流の機会が持てるための取り組み方法を考えていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		ヒヤリハットの報告、避難訓練などは適宜実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			保護者の方の情報を聞いて子どもたちの状況を把握し、スタッフ間で共有しておくことを心がける。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食べ物を提供することはない。	食事提供の有無にかかわらず、アレルギーについては初回にしっかりと聞き取りを行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			安全確保のための訓練を、一人ひとりにとって負担が無いよう行うために、事前聞き取りや計画を立てる等の取り組みを行う。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			緊急時の保護者との連携や対応策について、スムーズに行うためのマニュアルはあるが、十分に周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		必要に応じて対応している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修等で学びを深めている。	より安心できる療育体制を構築していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束予防に関する研修で学びを深めている。	より安全な療育体制を構築していく。	